

# 国家未来戦略を創る

ソウル大学国家未来戦略院副院長・政治外交学部教授

孫仁柱  
ソンインジュ



ソウル大学国家未来戦略院(以下、戦略院)は、6年にわたる試行錯誤と研究を経て2021年末、大学の直属研究機関として設立された。第8代国連事務総長の潘基文(パン・ギムン)氏に名誉院長を委嘱し、金炳連(キム・ビョンヨン)経済学部教授が初代院長を務めている。

ソウル大学では、2016年より国家政策フォーラムと国家戦略委員会といった場を通じて、研究者が多くのステークホルダーと国家を巡る諸政策を議論してきた。戦略院は、この過程で常設研究機関の必要性が認識され

設立されたものである。2022年2月の開院式以来、Philip S. Goldberg(フィリップ・ゴールドバーグ)駐韓米国大使やEdwin John Feulner(エドウィン・フォイルナー)米ヘリテージ財団アジア研究センター会長などを迎えて、世界の知性との対談や討論会を行ってきた。

現代の国際情勢は、複合的かつ急激に変化する。戦略院では、この現実を踏まえ多くの異なる分野の研究者が学際研究を進めている。韓国のみならず全人類が直面するあらゆる課

題は、相互に深く関連しており融合的で複合的なアプローチが必要である。しかし、既存の学問は、依然として細分化されたままであり現状に対応できない。そこで、戦略院では、研究領域を次のような6つの学際的クラスターに分け、様々な学問分野の専門家たちが共通のテーマを多方面から追究する仕組みを作っている。

- ① 「民主主義クラスター」民主主義の意義と市民の民主主義への参画を研究
- ② 「パンデミッククラスター」感染症が社会全体に及ぼす影響を総合的に研究

③「科学と技術の未来クラスター」技術主権の持続的な拡散と科学人材の養成を研究

④「経済安全保障クラスター」経済安全保障指数を開発

⑤「人口クラスター」少子高齢化、人口減少への対策を構築

⑥「グローバル韓国クラスター」米中対立を軸に国際社会における韓国の戦略を研究

戦略院では研究の独立性のため、政府や地方自治体の研究プロジェクトは、一切請け負っていない。しかし、その一方で、国家的な要請と学内の判断が一致して発足した「経済安全保障クラスター」のようなケースもある。現在は国際秩序が揺れ動き、経済が武器ともなり得る時代であり、経済と安全保障が融合している時代である。この「経済安全保障クラスター」は、データ分析でリスクを最小化する定量分析チームと、韓国外務省出身者が外交政策を推進する過程で獲得した知識を資料化する定性分析チームで構成されている。

今後、経済安全保障の状況を評価する指数を開発・公開し、政府や企業が効果的な取り組みができるようにする方針である。

また、戦略院では、恒久的な社会課題を長期的な観点で研究すると同時に、組織に柔軟性を持たせている。各クラスターは3年以上のタイムスパンで独立性と自律性を保ちながら活動しているが、突発的に発生する課題については、タスクフォース(以下、TF)を構成して取り組んでいる。「4大地政学TF」は、その典型的な事例でアメリカ・中国・ロシア・北朝鮮など、周辺国の動向を注視し効果的に対応するための活動を行っている。

戦略院では、各クラスターがテーマ別に基本的な研究成果を蓄積するとともに、あるべき政策の方向性について、国民的な共感を形成することにも注力している。2000人を超えるソウル大学の教授陣の知識を縦横に融合し、国家の発展に寄与する優れた政策づくりに最善を尽くす構想を体现したのがこの戦

略院である。さらに、ソウル大学という垣根にこだわるのではなく、ソウル大学のリソースに加えて学外のリソースも最大限に活用していきたい。社会の各界・各層とのコミュニケーション、とりわけメディアとの協業を進め、行政や立法府との意思疎通に努めていく。さらに、日本の研究機関をはじめとする海外の優れたシンクタンクとの協力にも期待している。研究活動を通じた国際協調の中で、アジアの繁栄と平和のための大きなビジョンと戦略を共に作り上げるのである。

「強硬姿勢」対「強硬姿勢」による衝突が起きてしまう激動の時代には、「実用的理想主義者(practical idealist)」の建設的な役割が重要である。国家や人類のため、実用的理想主義者のビジョンと献身が求められている。非実用的な妄想家ではなく、学問的かつ道徳的な原則を基盤にし、現実的で柔軟性を併せ持った人たちの貢献に期待したい。これこそが人類社会から信頼を得られる、融合的かつ複合的な未来戦略の礎であると信じている。